

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第26週 (6/22-6/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	26週	25週	24週	23週
小児科	17	18	16	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	27	28	26	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉県				千葉県 6/15-6/21 25週
			6/22-6/28	6/15-6/21	6/8-6/14	6/1-6/7	
			26週	25週	24週	23週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	5
	咽頭結膜熱		11	4	10	25	124
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	77	66	64	52	456
	感染性胃腸炎		92	124	121	111	829
	水痘		5	14	5	6	59
	手足口病	○	55	20	29	23	119
	伝染性紅斑	○	27	17	25	20	192
	突発性発しん		12	15	15	22	87
	百日咳	○	6	1	1	1	2
	ヘルパンギーナ		6	4	2	0	68
	流行性耳下腺炎		8	10	5	10	84
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	1	5
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	2	5	2	46
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	1	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	1	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	1	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出及び ヘロ毒素の確認
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	レジオネラ症	男性	80歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	80歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の検出、薬剤耐性の 確認及び起因菌の判定
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	後天性免疫不全症候群	女性	50歳代	血清抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体等の検出				

・結核5件(106)、出血性大腸菌感染症1件(4)、レジオネラ症1件(5)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(4)、後天性免疫不全症候群1件(4)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第26週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し4.53となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<手足口病> 前週より増加し3.24となった。過去10年の同時期と比べると多い。

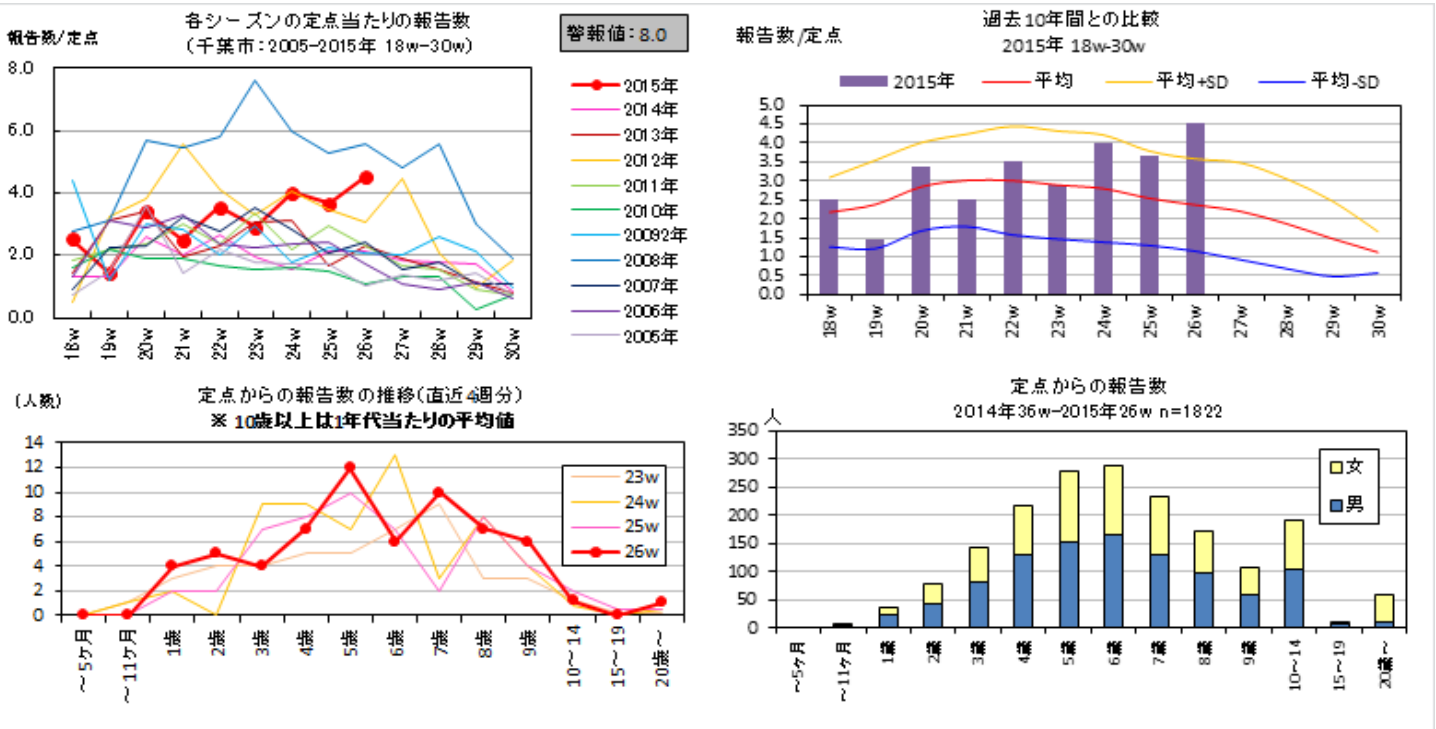
<伝染性紅斑> 前週より増加し1.59となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<百日咳> 前週より増加し0.35となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

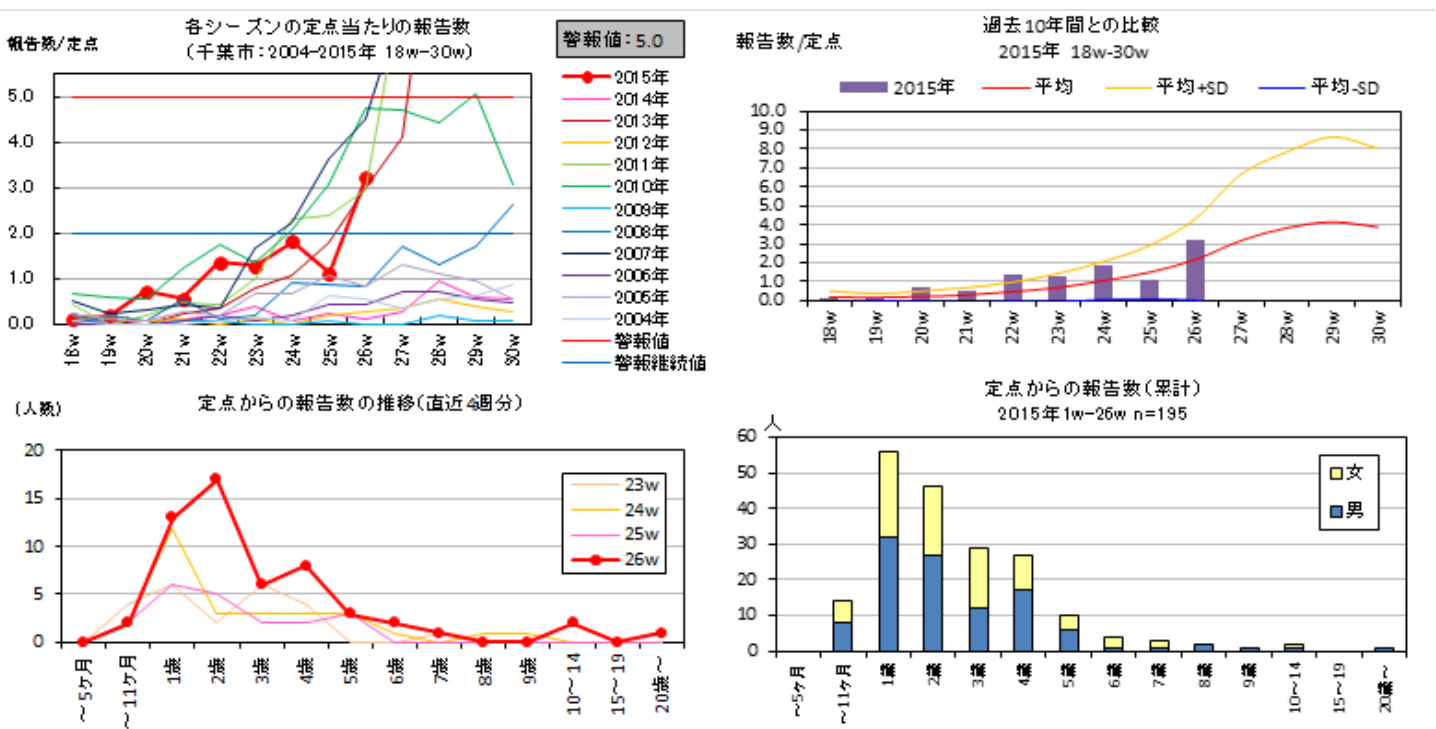
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの2015年は、過去8年間の同時期と比べ最多の状態が第7週から続いており、第25週も同様に最多となっています。都道府県別では、鳥取県、愛媛県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第26週は、前週より増加し4.53となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、若葉区(12.5/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で同区の7歳で最も多く発生が報告されました。今シーズンである2014年第36週から2015年第26週現在の累積報告数(n=1822)によると、性別では男性が55.4%(1009名)、女性が44.6%(813名)で、年齢階級別では6歳(15.9%:290名)、5歳(15.3%:279名)、7歳(12.8%:234名)の順に多くなっています。



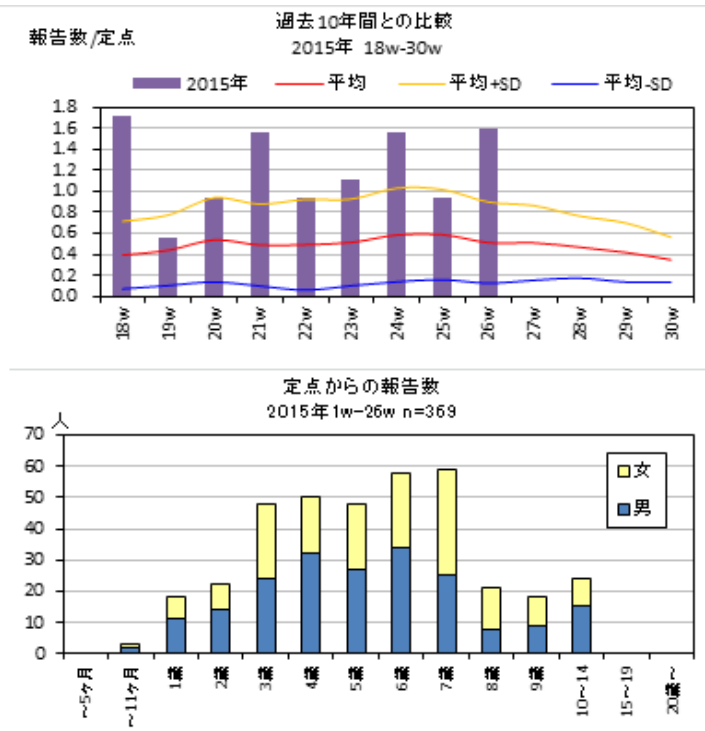
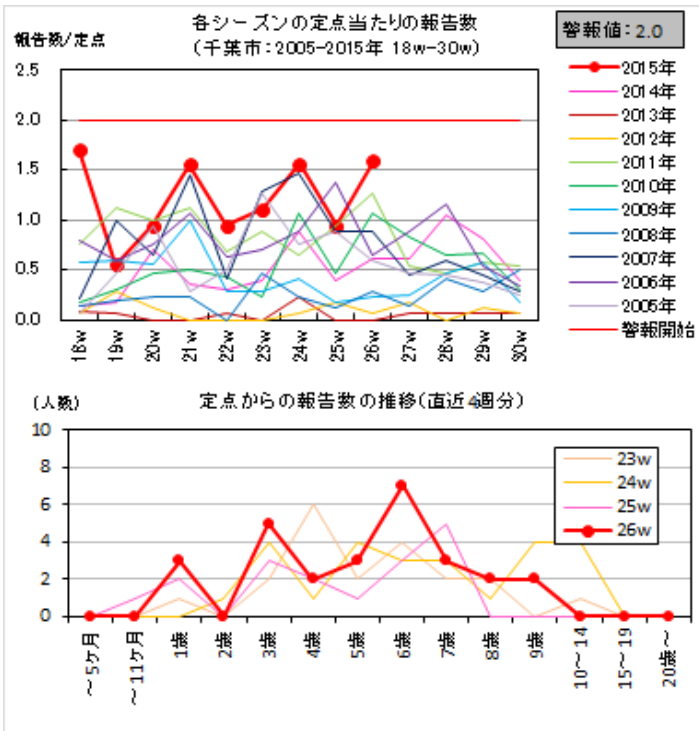
＜手足口病＞

全国レベルの第25週現在は、過去8年で最も多かった2011年とほぼ同等の動向となっています。都道府県別では、徳島県、香川県、山口県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第26週は前週から増加し3.24となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(5.25/定点)で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回り最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。また、中央区(5.0/定点)では流行発生警報開始基準値と並び、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第26週までの累積報告数(n=195)によると、性別では男性が55.9%(109名)、女性が44.1%(86名)で、年齢階級別では1歳(28.7%:56名)、2歳(23.6%:46名)、3歳(14.9%:29名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第25週現在は、過去8年の同時期と比べ多めとなっています。都道府県別では、滋賀県、埼玉県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2015年第26週は前週から増加し1.59となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。また、花見川区(2.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回り、同区の6歳で発生報告がありました。2015年第1週から第26週までの累積報告数(n=369)によると、性別では男性が54.5%(201名)、女性が45.5%(168名)で、年齢階級別では7歳(16.0%:59名)、6歳(15.7%:58名)、4歳(13.6%:50名)の順に多くなっています。



<百日咳>

全国レベルは過去8年の同時期と比べ年頭から少ないレベルで推移しており、第25週も同様に少なくなっています。都道府県別では、沖縄県、宮崎県及び岡山県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2015年第26週は前週から増加し0.35となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、中央区(1.33/定点)で流行発生警報開始基準値(1.0/定点)を上回り最多で、同区の20歳代前半で最も多く、1年代あたりでは9歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第26週までの累積報告数(n=12)によると、性別では男性が41.7%(5名)、女性が58.3%(7名)で、年齢階級別では10歳代前半(41.7%:5名)、9歳(25.0%:3名)、20歳以上(16.7%:2名)の順に多くなっています。

